

混合交通を観察する
DOCUMENT EYE

137

カーブでの曲がり方は?
近年、交差点以外に「単路」での交通死亡事故が増加傾向にある。平成12年の道路形状別死亡事故件数によると交差点での交通死亡事故が3896件に対し、単路での交通死亡事故は4720件。このうちカーブでの死亡事故は1565件で、前年よりも25件増えている(平成12年版交通統計より)。

WHY

カーブでの曲がり方は?

見通しの悪いカーブで、二輪車および四輪車のカーブの通過状況を観察した。

WATCHING

カーブ走行中にタイヤが音をたてているクルマも

観察は日曜日の午後、伊豆方面と箱根とを結ぶ静岡県の県道20号線三國峠付近で行なった。伊豆スカイライン出口とタインバイクや芦ノ湖スカイラインなどと直結するルートだ。



観察地点 / 静岡県駿東郡函南町 県道20号線三國峠付近
観察日 / 6月10日(日曜日)
天候 / 晴れ
観察時間 / 15:10 ~ 16:10
観察者 / 4名

クルマのカーブでの曲がり方を観察する
見通しの悪いカーブでセンターラインを越えたクルマ639台中286台

観察地点は、勾配があるややきついカーブで、センターラインには「右側部分の追い越しのためはみ出し禁止」を示す黄線が表示されていた。この上り側と下り側の両方向を見た。制限速度は時速40kmで、カーブミラーは設置されていなかった。下り坂のカーブの内側には広いところで一車線ほどのスペースがあった。

1時間の観察の結果、センターラインを越えたクルマは639台中286台(44.8%)、四輪車は上り坂で477台中280台(58.7%)、下り坂では1台も見られなかった。二輪車は上り坂で47台中6台(12.8%)、下り坂では四輪車同様1台も観察されなかった。

上り坂方向でセンターラインを越えた四輪車のほとんどはカーブが終わりにかけての地点ではみ出したというのだが、カーブの中間付近からはみ出した四輪車も2割ほどいた。見通しが悪い地点から強引に追い越した四輪車が1台観察された。センターラインを越えていた四輪車に、スピード超過のクルマは少なかった。ドライバーの年齢は幅広く、女性や高齢ドライバーとも思われる人も見かけた。



見通しの悪いカーブでセンターラインを越えたクルマ(639台)

	四輪車		二輪車		計
	上り	下り	上り	下り	
センターラインを越えた	280	0	6	0	286
センターラインを越えていない	197	110	41	5	353
計	477	110	47	5	639

た。カーブを通過する際は車体を傾けて走行するのだが、センターラインを越えないまでも、センターラインすれすれのところを走行するバイクが目立った。さらに、タイヤはセンターライン内だが体がセンターラインを越えているライダー(写真左)もいた。

PROPOSE
コーナー手前で減速し先を予測した運転を

この観察中、急ブレーキやクラクションが鳴るような場面はなかった。しかし、半数近いクルマがラインをはみ出しているのが現状であり、正面衝突や曲がりきれず事故などが発生するような危険の因子は十分にはらんでいない。楽しいはずの行楽が一転して大惨事になることも。先を読み、危険を予測した運転、そして「コーナー手前での減速を徹底して、センターラインをはみ出すことのないよう運転に臨んでほしい。」

